

かわせみ通信

～介護サービス相談員だより～

第41号



ふじキュン♡

発行日

2024年3月発行

発行者

介護サービス相談員連絡会
(連絡先)

藤沢市朝日町1-1

藤沢市介護保険課

電話 25-1111(内線)3141

藤沢市では、市が委嘱した介護サービス相談員を、市内の介護保険サービスを提供する施設に派遣し、利用者ご本人が感じている日常の疑問や困りごとなど、施設の職員に直接言いにくいことをお伺いし、第三者的な目で利用者、施設、藤沢市との「橋渡し役」をする介護サービス相談員事業を実施しています。

私たちが、介護サービス相談員です



南部久子 宮崎乃布 石井恵美子 鈴木裕子 岡野典子
勝又孝子 田中雅子 竹松尚子 原田幸子 小菅信子 川原徳子 和田小夜
佐藤紀子 松本京子 山本春江 山田光子 漆原啓子 五島美登利

介護サービス相談員とは・・・



介護サービス相談員は、市町村が事業にふさわしい人格と熱意を持っていると認め、かつ基本カリキュラムによる研修を修了し、各市町村長から委嘱を受けた人です。



～ あいさつ ～

藤沢市福祉部参事兼介護保険課長
中川 あをい

藤沢市の介護サービス相談員派遣事業は平成 13 年から実施しており、現在は 18 人の相談員が、52 施設を直接訪問しています。施設側の方々には、多大なるご理解とご協力をいただき、長い間この事業を継続してこられましたことに、深く感謝申し上げます。

また、新型コロナウイルス感染拡大時には、施設の皆様方は大変なご苦勞をされたことと存じます。心よりお見舞い申し上げます。

さて、高齢者人口は増加の一途をたどっており、2040 年には 65 歳以上の人口が全人口の 35%になると推計されるとともに、介護保険に対するニーズも増大することが予測されております。そのため、今後も本市の介護保険事業の一層の充実に向け、引き続き皆様方のお力添えを賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

Q.介護サービス相談員はどのような仕事をするの？

A.私がお答えします！（山田会長）

何気ない雑談や世間話から、大切なことが見えることもあります。介護保険サービスを提供する施設を訪問し、日常生活の様子をお伺いします。



「行政・施設・利用者」の橋渡し役です。ご利用者の思いや、疑問、不安感、不満？がある時には、問題解決につなげます。

私が心がけていること

まず、介護サービス相談員として心身共に健康であること。
明るい雰囲気、明るい外見で訪問したいと思っています。
現場スタッフとの情報交換も大切にしています。
時として閉鎖的になる施設に、第三者として外からの風を運びます。
ご利用者にとって、そこは我が家。住み心地がよい場所であるよう、お手伝いさせていただきます。

施設職員との意見交換会

(2023年11月13日 於:藤沢市役所本庁舎7階会議室)

訪問施設と介護サービス相談員との意見交換会を5年ぶりに開催しました。
今年度は、特別養護老人ホーム・介護老人保健施設・グループホームから、21施設の職員の方々に参加していただきました。
当日は6グループに分かれての話し合いでしたが、with コロナ時代における介護サービス、特に面会方法や感染防止について、活発な意見が交わされました。

テーマ1「面会方法について」

- ・面会時間は10～15分程度で、面会人数の制限を定めた。
- ・面会は予約制にして居室ではなく、応接室等別室で行うなど、オンラインを活用して画面越しでお願いした。
- ・ターミナルケアの方については、家族の希望に合わせ制限なしで行っている。

テーマ2「感染防止対策」

- ・空気清浄機を使用。
- ・職員は、N95マスクとフェイスシールドを着用して対応。
- ・職員に抗原検査キットを配布し、感染の疑いがある時はすぐに検査をできるようにした。

「コロナ禍において、家族と会えなかったことにより利用者のADL低下や、介護サービスの質が低下したように感じる。まわりの目というのが大事だと感じた」とのことでした。
遮断されたことにより、入居者のADL低下が見受けられたとのことでした。



～参加施設へのアンケート結果～

- ・他施設との情報交換により、取組や対応を知ることができて良かった。
- ・特別養護老人ホームとグループホームで対応が異なり、参考になった。
- ・介護サービス相談員派遣事業について知らない施設関係者が多いので、広く知る機会があると良い。



◆参加施設◆

【特別養護老人ホーム】

芭蕉苑/睦愛園/みどりの園/鶺鴒園/白鷺苑/藤沢富士白苑/かつらはら/グリーンライフ湘南/かりん
藤沢特別養護老人ホーム/藤沢愛光園/ラポール藤沢/村岡ホーム/結いの丘

【介護老人保健施設】

湘南わかば苑

【グループホーム】

クロスハート本鵜沼・藤沢/クロスハート円行・藤沢/湘南グループホーム えん/花樹/偕老ホーム
愛の家グループホーム藤沢片瀬

(順不同)

☆施設見学～SOMPO ケアそんぽの家 S 湘南台

～2023年9月27日訪問～



サービス付き高齢者向け住宅、いわゆる「サ高住」。他の介護施設と何が違うの？という疑問と共に見学しました。根本的な違いは「サ高住」は介護施設ではなく、日々の安否確認(24時間有人管理体制)や生活相談サービス付きの賃貸住宅ということです。そんぽの家 S 湘南台は、トイレ付ワンルームで車椅子でも生活できる仕様となっています。

大浴場と個別浴が整備、出来立ての食事が提供され、自炊との選択も可能。駐車場やトランクルームが借りられるといった特徴があります。食堂や共用スペースは清潔で、居心地の良い印象を受けました。食堂向いのガーデンは、利用者が草木の手入れをされているそうです。移動パン屋の販売もあり、外出できない時の楽しみになるのではないのでしょうか。外部の介護サービスやデイサービスの利用、外出も自由なので、ある程度自立し自分なりのプライベートな生活を送りたい、でも何かあった時不安・・・という方の選択肢の一つであると感じました。

(岡野 典子)

☆令和5年度神奈川県介護サービス相談員現任研修

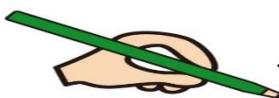
～2023年10月23日開催～

テーマ：「介護施設における高齢者虐待防止・身体拘束廃止の取組について」

拘束・投薬が日常的な1960年代から、身体拘束廃止の歴史を振り返るところから講義は始まりました。人は、環境に慣れてしまうと倫理観は低下しやすく、ストレス等が不適切なケアの背景になってしまう可能性があります。

「魔の3ロック」とされるフィジカルロック(身体拘束による行動制限)、ドラッグロック(薬物投与による行動制限)、スピーチロック(言葉による心身の動きの封じ込め)について廃止の取組や、現場での気づき、対策についても、事例を通して学びました。介護職員の職場環境と利用者の生活環境は比例しています。身体拘束は、ご利用者の心身を縛るだけでなく、介護職員の心までも縛ってしまうことが、研修を通して理解することができました。

(石井 恵美子)



◇編集後記◇

日常生活に多大な影響を与えた「新型コロナウイルス感染症」は大分落ち着いてきたようですが、介護保険サービスを提供する施設の生活はまだ気が抜けない状態です。

令和5年より6人が新たに加わり18人のメンバーで訪問活動を再開、訪問先施設職員との意見交換会も久しぶりに開催しました。また今話題の「サービス付き高齢者向け住宅」の訪問研修も行い、より良い活動に繋がっていきたいと思います。